

-----PR-----
も~い~くつ寝るとお~夏休みい~
夏休みにはオフをしてえ~、チャ~ットしてまた書き込みよお~
は~やあ~くう~こ~いこい~夏休みい~

夏のけだるい昼下がり、カンパリソーダとTonio's listeningroom
<http://www.gem.hi-ho.ne.jp/tokiok/>

ゲイツ氏、Windows2000を「落ちないOS」に
現在、版が配布され、ほぼ全貌を見せかけているWindows2000だが、マイクロソフト社長兼CEOのビル・ゲイツ氏の指令で、急遽「絶対に落ちることのないOS」化の機能が追加されることが明らかになった。
これは、先日行われた展示会で、ゲイツ氏がWindows2000について説明したところ、観客から、「いくらバージョンアップしても、GUIもMacの真似、良く落ちるところもMacの真似じゃあないか」と野次られたことに対し、同氏が腹を立てて急遽指令を出したものとされる。関係筋が明らかにしたところ、同氏は今回虫のいどころが悪かったのか、相当腹を立て、「よし、絶対に落ちないOSにしてやるから後悔するな!」と答えたという。また、このために、以前からマイクロソフト社の内部で極秘で研究されていた、「コンピュータウイルスに対抗する機能を持つOS」「各機能が切断されても自ら生き残りを探る動物的本能を持つOS」と言った、超先進的な機能が組み込まれるもよう。

「コンピュータウイルスに対抗する機能を持つOS」は、マイクロソフト内部で、コード名「ダーティー・ハリー」と呼ばれ、簡単に言うと、ワクチンソフトをOSの根幹に組み込むということであるが、これにより、コンピュータウイルスはもちろん、異常なデータや、OSが危険と判断したソフトは直ちに削除され、ウイルスをインストールしようとしたユーザーはログインさえ拒否され、アカウントも自動削除されるという。当然ながら、メール等で送られてきたウイルスデータも自動スキャンで解析され、送り元を突き止め、相手の機能停止が確認されるまで、徹底的に攻撃を行う。

「各機能が切断されても自ら生き残りを探る動物的本能を持つOS」はマイクロソフト内部で、コード名「LIFE WILL FIND A WAY」と呼ばれていたもので、1. OS内部の各機能が異常処理によりダウンしても、その部分を自動的に切り離し、自動でその代替機能を作りだし、再生するという「とかげのしっぽ切り機能」、2. 電源OFFやシャットダウン命令に徹底的な拒否反応を示し、ユーザーがあきらめるまで、ありとあらゆる質問を投げかけ困らせるという「スフィンクスの謎機能」、3. ユーザーが強制的に電源コードを抜いて停止させようとした場合には瞬時に極省電力モードに切り替え、徹底的にPC内部の消費電流を抑えて生き延びを図るとともに、電源コードを電磁的にコントロールし、再投入させる、「ゾンビ機能」、自OSが攻撃されたことをネットワークを通じ、他のWindows2000に知らせる助けを求め、これに応じ、ネットワーク上の他の正常なWindows2000のOS群が攻撃をしかけた相手に集団でアタックをするという「アタック25機能」からなる。
マイクロソフト社内部でテストしている数台のマシンは、動作開始からすでに2年が経過するが、今までに一度も停止したことがなく、またこのマシンを停止させようとして、数名の技術者がOSに攻撃され命を落としているという。

マイクロソフト社の幹部の中には、これらの機能が一旦搭載されると、OSは稼働停止することが無いため、さらなるOSのバージョンアップが望めず、マイクロソフト社の利益につながらないとして、この機能搭載に強行に反対を唱える者も多いというが、ゲイツ氏自身は、これに対し、「もはや、これは営利目的ではなく、全世界的な、真のデジタル・ナバス・システムを構築するのが目的なのだ」と息巻いているという。

なお、未確認情報によると、マイクロソフト社内部では、この機能搭載に対し強行に反対する開発者の手で、Windows2000上でWindows95、MacOSのエミュレーションを行うと簡単にOSが落とせる機能を密かに隠し機能として組み込む計画が進んでいるという。

~~~~~  
この記事に対する希望、感想、応援、絶賛、驚愕、非難、中傷、怒号、罵倒、お捻りはtonioまで。  
なお、本文中の人名、社名、個別名称等、実在するものもありますが、記事内容とは一切関係ありません。たぶん。  
また、記事内容の真偽のほどは一切検証しておりません。  
~~~~~